

輸送ルートの設定における基本的な考え方

○全体

輸送ルートは、東京 2020 大会による全ての大会ステークホルダーに対し、安全で効率的で信頼性が高く、遅れのない輸送サービスを提供するとともに、一般市民生活や都市活動に与える影響を考慮して設定する。

○関係者輸送ルート（オリンピック・ルート・ネットワーク）

- ①安全性、定時性を考慮し、一般道に比べ信号交差点がなく事故率も低い高速道路を主として設定する。
- ②一般道路においては交通容量の大きい4車線以上の道路を優先して選定する。
- ③最寄りとなる高速道路出入口から競技会場までを最短距離で結ぶ経路を設定する。

○観客輸送ルート

- ①歩行延長が過度に長くないよう、会場から一定圏内にある鉄道駅を観客利用想定駅として選定することを基本とする。
- ②入場・退場ともに同一駅とするなど、観客に分かりやすい経路の選定を基本とする。
- ③信号が設置され、適切な幅員の歩道とするなど、観客に安全な経路の選定を基本とする。
- ④入場ルートと退場ルートは、分離することを基本とすると共に、生活動線に配慮する。
- ⑤入場ルート・退場ルートともにアクセシブルルートと同じ経路であることを基本とする。

（アクセシブルルート）

- ①アクセシブルルートとは、観客利用想定駅から会場への経路のうちアクセシビリティに配慮が必要な観客の動線であり、その移動距離は500mを大きく超過しないことを基本とする。
- ②上記および『Tokyo2020 アクセシビリティガイドライン』を踏まえたサービス水準を、施設管理者等による恒常的な環境整備、または仮設による整備やソフト的対応により確保する。